

～織田信長サミット2009に向けて～



小牧山

戦国に馳せる

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課

第16回 天正4年～6年の信長

副主幹 松下 浩

安土築城

天正4年(1576年)は信長にとって大きな画期となる年です。前年に武田氏を長篠の合戦で討ち破り、東方の脅威を取り除きます。また、その年の暮れには嫡男信忠に家督を譲ります。戦国大名としての地位を信忠に譲り、戦国大名より上位の存在である天下人を目指そうという明確な意思表示です。

そして天正4年正月から安土城の築城に着手します。信長はこれまで自身の領国拡大に伴って居城を移してきましたが、安土築城はこれまでの居城の変遷とは大きく意味合いが異なります。それまでの居城はあくまで領国支配の拠点に過ぎませんでした。安土城は、領国支配の拠点という地位を越えた、天下人の居城として築かれたのです。

天下人の城 安土城

安土城の姿は、天下人の居城にふさわしく、それまでの城にはなかった豪華華麗なものでした。城の建つ安土山全体が石垣で覆われ、そのもつとも高い位置にそれまでにはなかった高層の天主がありました。天主の屋根には軒先に金箔が施された瓦が葺かれ、内部は当時の技術の粋を尽くした装飾で飾られていました。

築城と同時に、山麓の台地に城下

町も建設されます。天正5年(1577年)6月には、安土城下町に宛てて十三ヶ条の掟書が出されましたが、ここには楽市楽座をはじめ、城下町の振興と人々の集住を図るための権利保護の条項が書かれています。その結果、安土には多くの人が訪れ、さながら首都のような賑わいを見せたといわれています。



安土城・城下町遠景

毛利氏との戦い

この頃の信長は、畿内から東海・北陸という日本の中央部を勢力下に収めてはいたものの、周縁部にはまだまだ信長に対抗する戦国大名たちがいました。なかでも中国地方の雄毛利氏は、武田氏の脅威が衰えた今、信長にとってもっとも間近な脅威で

した。

信長と毛利氏はもともと友好関係を保っていました。信長によって追放された室町幕府最後の將軍足利義昭を毛利氏が迎え入れたことで緊張関係に変化していきます。そして天正4年7月、大坂本願寺と結んだ毛利氏の水軍が摂津木津川口の戦いで織田水軍を破り、いよいよ戦いが本格化することとなります。

この毛利氏との戦いのさなか、天正6年(1578年)11月、摂津有岡城主荒木村重が謀叛を起こします。村重は信長のもとで摂津一國の支配を任されるほど重用されていましたが、前々から毛利氏と通じていたのです。結局村重は有岡城に籠城し、その後1年近く、織田軍の攻撃をしのぎますが、やがて城を脱出し、最後は毛利氏のもとに身を寄せることとなります。



有岡城跡遠景

問合先 文化振興課(☎76 1189)